

序

今回の讃美歌は、御言葉をパラフレーズして安息日(主日)礼拝の至福を歌っています。

実は、N 姉からリクエストを戴いた時、私は首をかしげてしまったのです。讃美歌 491 番は「その他・朝」に分類され十把一絡げの様な扱い、讃美歌関連書籍には見向きもされず、Web 上の録音・資料も極めて少なく、人気薄な讃美歌の引照を受けました。私はリクエストの動機が分かりませんでした。

しかし英語歌詞を精査するうちに目から鱗が落ちました。この歌詞を初めて出版した編集者ジョン・ドーベルの序文とおりの素晴らしい讃美歌なんです。

詞

この歌詞は、1806 年ロンドンでウィリアムズ・アンド・スミス社より出版された、ジョン・ドーベル(John Dobell、1757-1840)編『 A New Selection of Seven Hundred Evangelical Hymns, for Private, Family, and Public Worship 』に収録されました。その序文に彼はこう記しています。「ここに公開する讃美歌は、200 名以上の作者から集めたものです。その多くは、知られずに放置するにはもったいないと考えた原稿から抜粋したもので、中には友人から提供されたものもあります。この作品は長年の努力と幾千もの讃美歌からの選集であり、神の教会にご満足いただけるものと確信します。」

〈参考〉19 世紀初頭のイギリスは、産業革命による社会変化の中、伝統的なイングランド国教会の役割に加え、メソジストなどのプロテスタント諸派の活動が活発になった時期です。

曲

この曲(Lischer または Das Lieben)は、古い文献の多くでは、ドイツのザクセン州アルト＝ヴァルターズドルフで生まれたフリードリヒ・ヨハン・クリスティアン・シュナイダー(Friedrich Johann Christian Schneider、1786-1853)の作とされています。カイトツヒ大学で教育を受けたシュナイダーは、1807 年から同大学のオルガニスト、1810 年からセコンダ歌劇団の指揮者、1817 年から市立劇場の監督を務めた。1821 年以降、ドイツのデッサウに移り、音楽学校を設立し、音楽指揮者を務めました。彼自身の作品には、17 のオラトリオ、23 の交響曲、7 つのオペラ、そしてカンタータ、ミサ曲、序曲などがあります。このメロディーの編曲はローウェル・メイソン(1792-1872)によって行われ、1841 年に出版された『カルミナ・サクラ』(ボストン教会音楽集)に初めて収録されました。

しかし、最近ではフリードリヒ・シルチャー(Friedrich Silcher、1789-1860)の編曲とされています。彼はドイツのシュトゥットガルト近郊のレムスタールに生まれ、著名な音楽教師兼作曲家となりました。1817 年、彼はテュービンゲン大学の音楽監督に任命され、数百曲に及ぶ民謡や聖歌隊や家庭合唱のための賛美歌の収集、作曲、編集に着手しました。彼自身の作品の中でも最も有名なものの一つは、ハインリヒ・ハイネ(Heinrich Heine)作詞の「ローレライ」です。

(参考) <https://www.youtube.com/watch?v=U8YoTy2Cydk>